

心白発現率が高く醸造適性に優れた酒造好適米新品種「南海酒 175 号」の育成

○松浦聡司・三枝大樹・井場良一・北崎康生・永吉嘉文¹⁾・中原孝博²⁾・黒木 智¹⁾・竹田博文¹⁾
(宮崎総農試^{・1)} 北諸県農林振興局^{・2)} 宮崎県農政水産部)

【目的】

宮崎県の酒造好適米（以下酒米）は県北の中山間地域を中心に契約栽培されているが、主要品種の「はなかがら」は近年心白発現率が低く推移し、品質低下による収益率低下が課題となっている。

そこで、心白発現が高く醸造適性に優れた酒米新品種「南海酒 175 号」を育成したので、その特性を報告する。

【育成経過】

「南海酒 175 号」は、2004 年宮崎県総合農業試験場において、良質酒米の「西海酒 255 号（後の吟のさと）」を母，多収の「はなかがら」を父として人工交配を行った組み合わせに由来する。

初期世代は集団育種法で世代を進め、2006 年の F₄ 世代に個体選抜を行い、以後系統育種法により選抜固定を図った。

2008 年 F₆ 世代に「向系 1000」の系統名で生産力検定及び特性検定試験に供試した。2010 年 F₈ 世代からは「南海酒 175 号」の系統名で奨励品種決定調査に供試し、収量・品質等に優れることから 2014 年品種登録出願を行った。

【特性概要】

稈長は「はなかがら」と同程度で「山田錦」より明らかに短く、穂長は「はなかがら」と同程度である。穂数はやや少なく草型は“穂重型”である。出穂期、成熟期とも「はなかがら」より 3 日早く「山田錦」と同程度で、暖地では“中生の中”に属する。耐倒伏性は「はなかがら」並で「山田錦」より強い“中”，脱粒性は「はなかがら」より優れ“中”である。玄米収量は「はなかがら」と同程度で「山田錦」よりも多い。心白発現率は「はなかがら」，「山田錦」よりも高く酒米品質は優れる（表 1）。

【利用上の問題と対策】

酒米に好ましくない心白粒（眼状，腹白状）の発生も多いため、既存品種よりも碎米が発生しやすいが、精米時間を短くし精米歩合を低くすることで碎米の発生を軽減できる（表 2，3）。

表 1 「南海酒175号」の特性概要

系統名・品種名	南海酒175号	はなかがら	山田錦	
早晩生 草型	中生の中 穂重型	中生の晩 穂重型	中生の中 穂重型	
出穂期(月・日)	8. 28	8. 30	8. 27	
成熟期(月・日)	10. 09	10. 12	10. 08	
稈長(cm)	89	88	107	
穂長(cm)	21. 1	20. 5	21. 4	
穂数(本/㎡)	314	334	374	
耐倒伏性	中	中	弱	
穂発芽性	中	中	やや易	
脱粒性	中	易	中	
耐 病 性	葉いもち 推定遺伝子	やや弱 <i>Pia, Pii</i>	弱 <i>Pii</i>	やや弱 +
	穂いもち	中	やや弱	やや弱
	白葉枯病	やや弱	やや弱	やや弱
	縞葉枯病	罹病性	罹病性	罹病性
玄米重(kg/a)	59. 4	58. 5	50. 7	
同上標準比率(%)	102	100	87	
玄米千粒重(g)	26. 8	26. 4	26. 2	
玄米品質1)	4. 9	5. 8	4. 8	
検査等級2)	4. 0	4. 3	4. 4	
玄米 α -アミラーゼ含有率(%)*	6. 9	7. 1	7. 1	
心白発現率(%)	66. 8	26. 3	49. 6	

注1) 1(上上)～9(下下)の9段階評価，酒米として評価
注2) 1(特上)，2(特等)，3～5 (1～3等)の5段階評価
注3) 2008～13年の平均，但し*)は2008～9年の平均

表 2 心白の発現と形状（2012年） 単位：%

系統・品種名	心白発 現率	心白率	形状			
			点状	線状	眼状	腹白状
南海酒175号	93. 3	82. 3	9. 0	42. 3	17. 3	7. 0
はなかがら	61. 0	40. 3	21. 3	16. 7	5. 3	6. 3
山田錦	74. 0	64. 3	8. 3	30. 3	2. 3	21. 6

注) 心白発現率=心白粒数/全粒数

心白率=(5×心白大+4×心白中+2×心白小)/5×心白粒数

表 3 精米歩合と碎米発生程度の関係（2013年）

系統名 品種名	精米歩合	精米時間 (hr)	碎米発生 程度 (%)
南海酒175号	60%	40	30
	70%	35	20
はなかがら	60%	48	20
	70%	37	10